

2024 10

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【4】

8月号作品批評／宮本史一（心の花）

高校生短歌特集【1】

NILE CAMPUS

304

伯梅閑話 —— 明智小五郎のモデルは五代目伯龍 —— 小村井敏子（五代目神田伯梅）

今は、障がい者であるからと差別することは、悪いこととされているが、戦前のこと、小児まひで手が不自由だった五代目は、子供の頃から、いじめられて育ち、芸人になってからも兄弟子伯治にずいぶん意地悪をされたという。世の中全体が、兵隊に行けない障がい者に、「役立たず」という偏見を持っていた時代だ。

そんな環境の中にいた五代目の伯龍の雰囲気が、大作家の目を引き付けたようだ。江戸川乱歩は、名探偵明智小五郎のモデルとして、五代目を選んだ。もちろん、探偵ではないから、姿かたちのモデルだ。そのことは、「D坂の殺人事件」に書かれている。引用しよう。

年は私と同じくらいで、二十五歳を越してはいまい。どちらかといえば痩せた方で、先にも言った通り、歩くときに変に肩を振る癖がある。といつても、決して豪傑流のそれではなく、妙な男を引き合いに出すが、あの片腕の不自由な講釈師の神田伯龍を思い出させるような歩き方なのだ。伯龍といえは明智は顔つきから声音（こわね）まで、彼にそっくりだ——伯龍を見たことのない読者は、諸君の知っているところの、いわゆる好男子ではないが、どこことなく愛嬌のある、そしてもつとも天才的な顔を想像するがよい——（日本の文学傑作一〇〇選五「黒蜥蜴」(株)デアゴステイーニ・ジャパン発行より）

伯龍が正しいが、漢字を制限している関係で、竜が使われることが多い。五代目は手が不自由なので、竜とかくことがあったと聞く。 （ナイル2005年6月号より）

